

日・インドネシア首脳共同記者発表におけるプラボウォ大統領の発言
(仮訳)

高市早苗内閣総理大臣、
両国の閣僚及び政府高官の皆様、
メディア関係者の皆様、

こんにちは。

皆様に平安と神の御慈悲と祝福がありますように。

まずは、高市総理及び日本政府に対し、大変温かく光栄な御歓待を頂いたことに深く敬意を表するとともに感謝申し上げます。桜が咲くこの美しい季節に訪日の御招待を頂いたことを有り難く思います。

また、昨日は、天皇陛下にお目にかかることができ、深謝いたします。その際、私からは、長年にわたり良好に進展している日本とインドネシアとの関係を一層強化していくとのコミットメントをお伝えいたしました。

御列席の皆様、

今回の私の訪日は、世界が挑戦、不確実性、さらには危険に満ちている中で行われています。私たちは、日本とインドネシアの両国が全ての関係者に対して緊張を緩和していくよう懸命に働きかけていくことで一致いたしました。インドネシアは、必要ならば仲介役として平和に向けて緊張緩和のための努力を促進していく用意があります。私たちは、現在の状況を極めて憂慮しておりますが、こうした不確実性の中にあって、インドネシアと日本との良好な協力関係は、地域の安定と平和に向けて前進し、また、それを保証するための連携として範となるものです。

私たちは、経済、二国間協力、エネルギー、海洋、水産業、安全保障など多くの問題につき議論いたしました。これら（の分野での協力）は全て前向きかつ良好な（二国間関係の）軌跡を示すものです。

インドネシアは、日本との経済連携協定の改正議定書の批准と実施の加速化に向け、懸命に取り組みます。近いうちに（批准手続を）完了できることを期待しています。

また、インドネシアは、引き続き日本がインドネシア経済に参画することを期待しており、重要鉱物やレアアースの分野で連携していきたいと考えています。また、下流化を通じたインドネシアの産業発展においても日本に参画していただきたいと考えております。さらに、再生可能エネルギーや原子力といった分野での協力も開かれています。

私たちは、日本企業も参画しているA Z E Cを推進していきます。インドネシアは、その中で既存のプロジェクトにつきボトルネックがあれば、その解決を加速化し、支援していきます。既存のプロジェクトとしては、例えば、レゴックナシカ廃棄物発電事業やサルラ地熱発電事業が挙げられます。

インドネシアは、日本企業であるインペックスがマセラ鉱区におけるアバディリングプロジェクトに投資されていることを歓迎しています。同プロジェクトには時間がかかっておりますが、早期の実現を期待しています。

また、教育、観光、人的交流を含むあらゆる分野において日本と協力・連携していきたいと考えています。

御列席の皆様、

インドネシアと日本は、良好に進展している両国関係を引き続き維持・強化していくことにコミットしています。インドネシアは、経済発展における日本の全ての協力に大変感謝しています。また、インドネシアの若者たちが、日本であらゆる分野において多くの学習機会が与えられているほか、多くのインドネシア人が職業実習の機会を与えられていることに深謝いたします。

重ねて申し上げますが、(今回の訪日において、)私は、日本政府と日本国民の皆様々に敬意を持ってお迎えいただいたと強く感じております。私は、高市総理にもインドネシアを公式訪問していただくよう御招待申し上げます。その際は是非歓迎申し上げたいと思います。

最後に、この場をお借りして、高市総理が先の日本における選挙において大勝されたことに、同じ政治家として祝意をお伝え申し上げます。

ありがとうございました。